

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号  
特開2001-74359  
(P2001-74359A)

(43)公開日 平成13年3月23日(2001.3.23)

(51)Int.Cl.<sup>7</sup>  
F 2 5 D 23/04

識別記号

F I  
F 2 5 D 23/04

キーワード\*(参考)  
K

審査請求 未請求 請求項の数7 O L (全5頁)

(21)出願番号 特願平11-250833

(22)出願日 平成11年9月3日(1999.9.3)

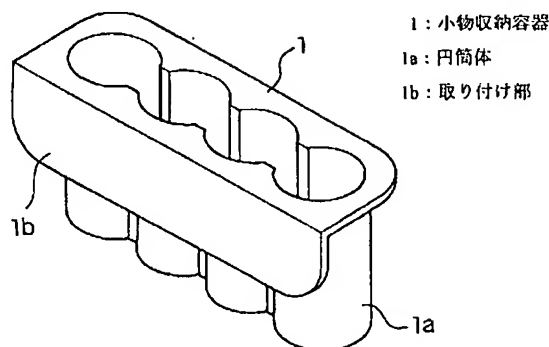
(71)出願人 000006013  
三菱電機株式会社  
東京都千代田区丸の内二丁目2番3号  
(72)発明者 山脇 聖嘉  
東京都千代田区大手町二丁目6番2号 三  
菱電機エンジニアリング株式会社内  
(72)発明者 須田 憲行  
東京都千代田区大手町二丁目6番2号 三  
菱電機エンジニアリング株式会社内  
(72)発明者 田村 直幹  
東京都千代田区丸の内二丁目2番3号 三  
菱電機株式会社内  
(74)代理人 100099461  
弁理士 溝井 章司 (外2名)

(54)【発明の名称】 小物収納容器

(57)【要約】

【課題】 ボトル、パック、ビン等の収納量を減少させることなく、チューブ等の小物食品を収納することができ  
る小物収納容器を提供すること。

【解決手段】 冷蔵庫の扉内側に庫内に突出するように  
設けられ、上方が開いた収納容器の前面壁に係止され  
るものにおいて、小物チューブ類を収納できる上部が開  
口した円筒体をひょうたん状に連結した小物収納部と、  
前部に収納容器の前面壁に係止される取付部と、を備え  
たものである。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 冷蔵庫の扉内側に庫内に突出するように設けられ、上方が開いた収納容器の前面壁に係止される小物収納容器において、  
小物チューブ類を収納できる上部が開いた円筒体をひょうたん状に連結した小物収納部と、  
前部に前記収納容器の前面壁に係止される取付部と、を備えたことを特徴とする小物収納容器。

【請求項2】 前記円筒体の内径は、小物チューブ類を収納した場合、前記小物チューブ類のキャップ部が固定できる寸法としたことを特徴とする請求項1記載の小物収納容器。

【請求項3】 前記収納容器に中型の食品を収納した場合に形成されるデッドスペースに収納されることを特徴とする請求項1記載の小物収納容器。

【請求項4】 前記円筒体をひょうたん状に4つ連結したことを特徴とする請求項1記載の小物収納容器。

【請求項5】 少なくとも2つ以上が連結した円筒体の底面には隣接する二つの円筒体底面を連続して開口するスリットを設けたことを特徴とする請求項1記載の小物収納容器。

【請求項6】 前記小物チューブ類のキャップ部を上にして収納した場合、前記小物チューブ類を前記収納容器の底まで収納できる構成としたことを特徴とする請求項5記載の小物収納容器。

【請求項7】 冷蔵庫の扉内側に支持されて庫内に突出するように設けられ、上方が開き、前面壁および底面に食品を取り出しやすいように勾配を付けた収納容器の前面壁に係止される小物収納容器において、  
前記収納容器の前面壁に係止される小物収納容器の後壁の形状を略垂直としたことを特徴とする小物収納容器。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、冷蔵庫等のドアポケットに使用される小物収納容器に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】図7は、例えば実開昭55-10524号公報に示された従来の小物収納容器の斜視図である。図において、1は小物収納容器、1bは小物収納容器1の前部に形成された取り付け部で、ドアポケット2の前面壁2aに係止されている。小物収納容器1には、小型のチューブの収納部と大型のチューブの収納部が設けられており、小型のチューブの収納部には、小型のチューブのキャップを差し込める穴を設けた脱着可能な支持部材3がセットされ、大型のチューブの収納部には案内板1eが形成され、チューブ類を整理しやすい構造となっている。

【0003】また、小物収納容器について開示した他の先行技術文献として特開平10-103852号公報が

ある。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】従来の小物収納容器は以上のように構成されているため、小物収納容器1をドアポケット2の前面壁2aに取り付けた場合、設置スペースが必要となるため、チューブ類の収納が少ない時又はチューブ類を収納しない時は占有スペースを要するためボトル、バック、ビン等の収納量を減少させる等の問題があり、対応として取り外して別保管する必要があった。

【0005】この発明は、上記のような問題点を解消するためになされたもので、ボトル、バック、ビン等の収納量を減少させることなく、チューブ等の小物食品を収納することができる小物収納容器を提供することを目的とする。

## 【0006】

【課題を解決するための手段】この発明に係る小物収納容器は、冷蔵庫の扉内側に庫内に突出するように設けられ、上方が開いた収納容器の前面壁に係止されるものにおいて、小物チューブ類を収納できる上部が開いた円筒体をひょうたん状に連結した小物収納部と、前部に収納容器の前面壁に係止される取付部と、を備えたものである。

【0007】また、円筒体の内径は、小物チューブ類を収納した場合、小物チューブ類のキャップ部が固定できる寸法としたものである。

【0008】また、収納容器に中型の食品を収納した場合に形成されるデッドスペースに収納されるものである。

【0009】また、円筒体をひょうたん状に4つ連結したものである。

【0010】また、少なくとも2つ以上が連結した円筒体の底面には隣接する二つの円筒体底面を連続して開口するスリットを設けたものである。

【0011】また、小物チューブ類のキャップ部を上にして収納した場合、小物チューブ類を収納容器の底まで収納できる構成としたものである。

【0012】また、冷蔵庫の扉内側に支持されて庫内に突出するように設けられ、上方が開き、前面壁および底面に食品を取り出しやすいように勾配を付けた収納容器の前面壁に係止されるものにおいて、収納容器の前面壁に係止される小物収納容器の後壁の形状を略垂直としたものである。

## 【0013】

【発明の実施の形態】実施の形態1. 以下、この発明の実施形態1を図面を参照して説明する。図1～2は実施形態1を示す図で、図1は小物収納容器の斜視図、図2は小物収納容器を使用した冷蔵庫のドアポケットの斜視図である。図において、1は小物収納容器であり、上部が開いた円筒体1aがひょうたん状に4つ連結して小

物収納部を構成している。この円筒体1aの内径は、円筒体1aへ既存のねりわさび、からし等の小物チューブ類を収納したとき、チューブ類のキャップ部が固定できる寸法に設計されている。このため、チューブ類を安定した状態で収納することができる。

【0014】尚、一般的な小売店では、2〜3社のねりわさび、からし等の小物チューブ類を販売しているが、そのキャップ部の直径は約22mm、チューブの全長は約145mm、チューブの末端は約40mmの平坦状に溶着されており主要寸法はほとんど同じである。また、小物収納容器1の前部には取り付け部1bが形成され、図2に示すように、これにより収納容器であるドアポケット2の前面壁2aへの小物収納容器1の取り付け、取り外しが可能である。

【0015】図2に示すように、ドアポケット2は、通常、大型のペットボトル等も収納できるように設計されているため、牛乳パック、缶ビール等の中型の食品を収納した場合、ドアポケット2内にデッドスペースができるが、このデッドスペースへ小物収納容器1を取り付けることにより、ドアポケット2の収納量を減少させることなく、チューブ等の小物食品を収納することができる。

【0016】上述の実施の形態では、4個の円筒体1aを有する小物収納容器1を示したが、もちろんこれに限られたものではなく、円筒体1aの数はドアポケットの長さ以内であれば何個でも良い。

【0017】実施の形態2。以下、この発明の実施の形態2を図面を参照して説明する。図4は実施の形態2を示す図で、図2のA-A断面図である。図において、1cは小物収納容器1の底面に2つの円筒体1aを連続して開口するスリットである。上記実施の形態では、小物収納容器1へチューブ類のキャップ部を下にして収納する形態を示したが、スリット1cを設けることで、チューブ類のキャップ部を上にして収納可能である。

【0018】また、キャップ部を上にして収納した場合、チューブ類がドアポケット2の底まで収納できるため、小物収納容器1の後側へ収納した牛乳パック等の取り出しを容易に行うことができる。

【0019】実施の形態3。以下、この発明の実施の形態3を図面を参照して説明する。図3は実施の形態3を示す図で、小物収納容器の使用したドアポケットの断面図である。図において、ドアポケット2は前面壁2aおよび底面2bに食品を取り出しやすいように勾配をつけた収納容器である。

【0020】このドアポケット2の前面壁2aの内側へ小物収納容器1を取り付けたとき、小物収納容器1の後壁1dが略垂直になるよう形成することにより、ドアポケット2へ収納した牛乳パック等が略垂直となり、傾けて収納することによる中身の溢れを防止できる。

【0021】実施の形態4。以下、この発明の実施の形

態4を図面を参照して説明する。図5、6は実施の形態4を示す図で、図5は小物収納容器を使用した冷蔵庫扉内側を示す斜視図、図6は冷蔵庫の冷蔵室扉内側を示す部分拡大断面図である。図5において、冷蔵庫背面等から吹き出された冷気は内板10に支えられる上段ポケット201や下段ポケット202の底面に設けられたスリット4を上から下へ通過する。また上段ポケット201の奥側で扉の内板10に設けられた内板風路5を通過し上段ポケット201から下段ポケット202へ送られる。よって扉開閉によるポケット周りの温度上昇が抑制される。

【0022】図6に示すように、上段、下段ポケット201、202に食品6、7が収納されている。食品が収納されても内板10に設けられた風路5を上段ポケット201から下段ポケット202に冷気を送る構成として、このように構成することにより、扉開閉によるポケット周りの温度上昇が抑制される。

【0023】

【発明の効果】この発明に係る小物収納容器は、小物チューブ類を収納できる上部が開口した円筒体をひょうたん状に連結した小物収納部と、前部に収納容器の前面壁に係止される取付部と、を備えたので、扉の収納容器のボトル、パック、ビン等の収納量を減少させることなく、チューブ等の小物食品を収納することができる。

【0024】また、円筒体の内径は、小物チューブ類を収納した場合、小物チューブ類のキャップ部が固定できる寸法としたので、チューブ類を安定した状態で収納することができる。

【0025】また、小物収納容器は扉の収納容器に中型の食品を収納した場合に形成されるデッドスペースに収納されるので、扉の収納容器の収納量を減少させることなく、チューブ等の小物食品を収納することができる。

【0026】また、少なくとも2つ以上が連結した円筒体の底面には隣接する二つの円筒体底面を連続して開口するスリットを設けたので、チューブ類のキャップ部を上にして収納できる。

【0027】また、隣接する二つの円筒体底面を連続して開口するスリットを設け、小物チューブ類のキャップ部を上にして収納した場合、小物チューブ類を収納容器の底まで収納できる構成としたものである。

【0028】また、冷蔵庫の扉内側に支持されて庫内に突出するように設けられ、上方が開口し、前面壁および底面に食品を取り出しやすいように勾配を付けた収納容器の前面壁に係止されるものにおいて、収納容器の前面壁に係止される小物収納容器の後壁の形状を略垂直としたので、牛乳パック等を略垂直に収納でき、傾けて収納することによる中身の溢れを防止できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 実施の形態1を示す図で、小物収納容器の斜視図である。

5

【図2】 実施の形態1を示す図で、小物収納容器を使用したドアポケットの斜視図である。

【図3】 実施の形態3を示す図で、図2のA-A断面図である。

【図4】 実施の形態2を示す図で、図2のA-A断面図である。

【図5】 実施の形態4を示す図で、冷蔵庫の冷蔵室扉内側を示す斜視図である。

【図6】 実施の形態4を示す図で、冷蔵庫の冷蔵室扉

6

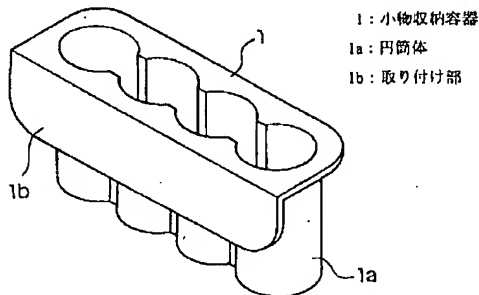
内側を示す部分拡大断面図である。

【図7】 従来の小物収納容器を使用したドアポケットの斜視図である。

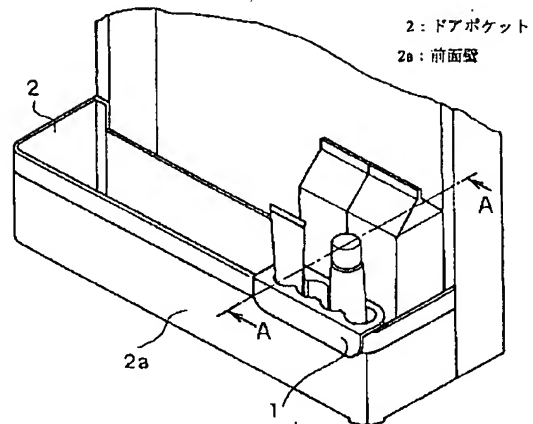
【符号の説明】

1 小物収納容器、1a 円筒体、1b 取り付け部、1c スリット、1d 後壁、2 ドアポケット、2a 前面壁、2b 底面、201 上段ポケット、202 下段ポケット、4 スリット、5 内板風路、6、7 食品、10 内板。

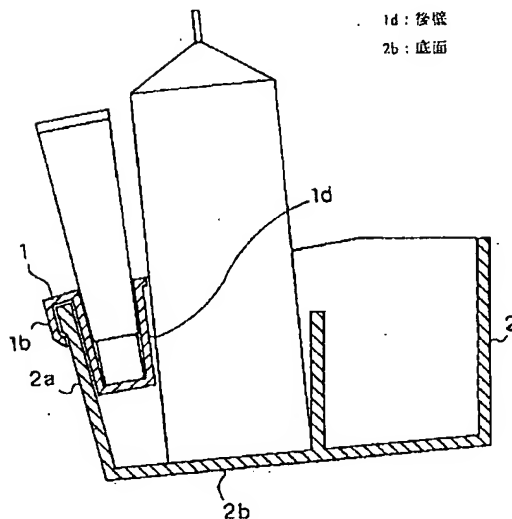
【図1】



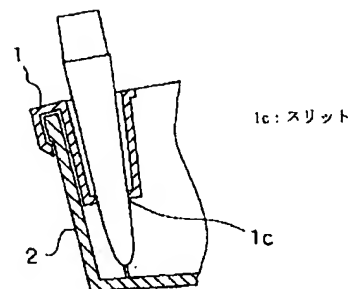
【図2】



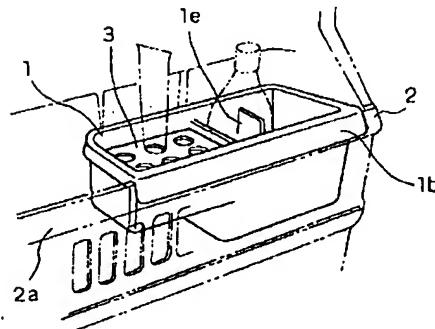
【図3】



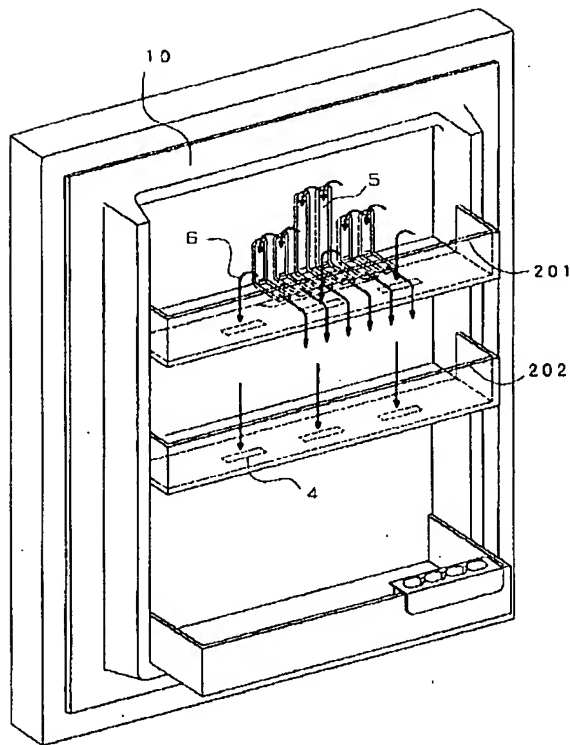
【図4】



【図7】



【図5】



【図6】

